

高校野球 春季東北大会

第73回春季東北地区高校野球大会第2日は10日、弘前はるか夢球場と青森市ダイシンベースボールスタジアムで準々決勝を行った。八学光星(青森②)は聖光学院(福島①)に2-9で8回コールド負け。青森山田(青森①)は花巻東(岩手①)に10-4で快勝し、準決勝に駒を進めた。ほかに仙台育英(宮城①)と東北(同②)が4強入りした。

11日の休養日を挟み、12日に弘前はるか夢球場で準決勝を行う。青森山田は仙台育英とぶつかる。(大西桂介、小嶋嘉文)

準々決勝

八学光星000 000 11 | 2
聖光学院005 000 04x | 9

(8回コールド)

(ハ) 及川、岡谷、秋元、岩崎-鈴木

(聖) 松本、紺野-横山

▷二塁打 鈴木 (ハ) 横山2 (聖)

▷暴投 秋元、岩崎2 (ハ)

▷試合時間=2時間13分

(球審=土井、塁審=武藤、西谷、小田)

【評】八学光星は三回、2番手で登板した岡谷がつかまり、聖光学院から打者10人の猛攻を浴びて5失点。終盤に2点を返したが、八回には岩崎が打ち込まれてコールド負けを喫した。

打線は相手投手の内角攻めに苦しみ、わずかに4安打に終わった。

光星 コールド負け



【準々決勝・八学光星-聖光学院】3回1死1塁のピンチで、マウンドに集まる八学光星の選手。弘前はるか夢球場

焦点

3回5失点、打線も沈黙

センバツ8強の八学光星は準々決勝で姿を消した。エース北口晃大に次

ぐ投手の台頭が課題とされる中、4投手がマウンドに立つが、計14安打を浴び炎上。頼みの打線は相手投手の執拗な内角攻めに苦しみ、援護することができなかった。攻守た。

9日の初戦で8イニングを投げた北口を温存。監督は「センバツが終わりからチームがしっくりせず、改善されないままこの結果となってしまった」と敗戦を受け入れた。岡谷蒼斗が浮き足たつた。2死二塁、打者を二ゴロに仕留めながら、ベースカバールを怠る痛恨のミス。打者走者がセーフとなった間に二走が一気に生還すると、そこから安打と四死球でさらに4点を失った。

三回途中から救援した3番手の秋元尊が立て直し、流れを呼び込むとするも、打線が沈黙。セ、八回で2点を返すのがやっとだった。

4番手の岩崎賢成は八回に連打され、二つの暴投も記録。守備のミスも絡んで4点を奪われた。岩崎は八回に粘れず、流れを引き寄せられなかった。こうなれば、「北口さんのように、試合をつくれる投手にならないといけない」。青森県11の2年生は自分に言い聞かせた。(小嶋嘉文)